

Health risks and disease manifestations due to chemical exposure

化学物質曝露による健康リスクと疾病の発現

講師： Prof. Joel Edmund Michalek

University of Texas, Health Science Center at San Antonio

ジョエル エドモンド ミハレク教授
アメリカ・テキサス大学



日時：令和6年12月23日（月） 16:00～17:30

場所：神戸大学大学院農学研究科 会議室4 A305

以下の三つの話題についてお話しいただきます。

1. Agent Orange exposure and monoclonal gammopathy of undetermined significance: An operation ranch hand veteran cohort study, history and findings
(枯葉剤曝露と意義不明のモノクローン性ガンマグロブリン血症)
ベトナム戦争中の枯葉剤曝露が、退役軍人におけるモノクローン性ガンマグロブリン血症（MGUS）の発症に与える影響を調査した。MGUSは血液がんの前兆となる可能性があり、退役軍人の健康への影響に関する研究を紹介する。
2. The BOIN procedure theory and methods: A phase Ib/II open-label, dose-escalation, safety, pharmacokinetic, pharmacodynamic and efficacy study of bemcentinib plus pacritinib in patients with advanced lung adenocarcinoma
(BOIN手順の理論と方法)
進行性肺腺がん患者に対するbemcentinibとpacritinibの併用の効果を臨床試験で調べた。薬剤の最適な用量を決定し、その安全性や薬物動態、薬力学、そして有効性を評価した。
3. Determination of safe levels of persistent organic pollutants in toxicology and epidemiology
(毒性学および疫学における残留性有機汚染物質の安全レベルの決定)
残留性有機汚染物質（POPs）の健康リスクを評価し、その安全な曝露レベルを設定することを目指した。毒性学および疫学的手法を組み合わせ、安全ガイドラインを確立した。

講師紹介

Joel Edmund Michalek教授は、疫学や生物統計学の分野で広範な知識を有し、臨床試験や前臨床試験、プロトコル作成やデータ分析に関する豊富な経験を持つ専門家です。特に、ベトナム戦争での枯葉剤曝露とその影響に関する20年以上の研究経験があります。現在は、メイ・ガンセンターのプロトコル審査委員会のメンバーとしても活躍しています。

問い合わせ先：応用機能生物学講座 乾 秀之 hinui@kobe-u.ac.jp

後援：神戸大学農学部同窓会「六篠会」、日本環境化学会国際企画部、日本水環境学会MS技術研究委員会